

過酸化漂白に対する 染色堅ろう度試験方法

Test method for colour fastness to bleaching with peroxide

1. 適用範囲 この規格は、染色した繊維製品の加工工程上、通常用いられる濃度の過酸化漂白に対する染色堅ろう度試験方法について規定する。

備考1. この規格の引用規格を、次に示す。

JIS K 1408 けい酸ナトリウム（けい酸ソーダ）

JIS K 8159 塩化マグネシウム六水和物（試薬）

JIS K 8230 過酸化水素（試薬）

JIS K 8231 過酸化ナトリウム（試薬）

JIS K 8576 水酸化ナトリウム（試薬）

JIS K 8785 二りん酸ナトリウム十水和物（試薬）

JIS L 0801 染色堅ろう度試験方法通則

JIS L 0803 染色堅ろう度試験用添付白布

JIS L 0804 変退色用グレースケール

JIS L 0805 汚染用グレースケール

2. この規格の対応国際規格を、次に示す。

ISO 105-N02 : 1993 Textiles—Tests for colour fastness—Part N02 : Colour fastness to bleaching : Peroxide

2. 要旨 この試験は、複合試験片を規定の方法に基づいて漂白液中に浸せきし、水洗し、乾燥した後、試験片の変退色と添付白布の汚染の程度を、それぞれ変退色用グレースケール又は汚染用グレースケールと比較して、その堅ろう度を判定する方法である。

3. 装置及び材料 装置及び材料は、次のものを用いる。

(1) 試験管 試験片を丸めて試験管に入れたとき、試験片が漂白液に完全に浸せきする大きさのもので、かつ、還流冷却器を取り付けることができるもの。

(2) 還流冷却器

(3) 恒温水槽 JIS L 0801 の 4.(1)（恒温水槽）に規定するもの。

(4) 脱水用機器 JIS L 0801 の 4.(2)（脱水用機器）に規定するもの。

(5) 乾燥機 JIS L 0801 の 4.(3)（乾燥機）に規定するもの。

(6) 添付白布 JIS L 0803 に規定するもの。

- (7) 変退色用グレースケール JIS L 0804 に規定するもの。
 (8) 汚染用グレースケール JIS L 0805 に規定するもの。
 (9) 過酸化水素 (30%) JIS K 8230 に規定するもの。
 (10) 過酸化ナトリウム JIS K 8231 に規定するもの。
 (11) けい酸ナトリウム JIS K 1408 の 3 号のもの。
 (12) ニリン酸ナトリウム十水和物 JIS K 8785 に規定するもの。
 (13) 塩化マグネシウム六水和物 JIS K 8159 に規定するもの。

4. 複合試験片の調製 複合試験片の調製は、JIS L 0801 の 5.2（複合試験片の調製）による。ただし、試験片に添付する 2 枚の白布は、表 1 のものを用いる。

表 1 添付白布の繊維の種類

試験片の着色部分 の繊維の種類	第 1 添付白布	第 2 添付白布
毛	毛	綿
絹	絹	
亜麻	綿	
レーヨン	レーヨン	
ポリエステル	ポリエステル	
アクリル	アクリル	
綿	綿	レーヨン
アセテート	アセテート	

参考 表の“試験片の着色部分の繊維の種類”とは、試験片に含まれる白場部分以外の着色繊維の種類のことである。

5. 試験浴の組成及び試験条件 試験浴の組成及び試験条件は、表 2 のとおりとする。

表 2 試験浴の組成及び試験条件

初浴 (1l 当たり)	試験片の白場部分の繊維の種類			
	天然及び再生セルロース繊維		毛及びアセテート	絹
	浴 1	浴 2	浴 3	浴 4
過酸化水素 (30%) ml	5	—	20	20
過酸化ナトリウム ⁽¹⁾ g	—	3	—	—
けい酸ナトリウム g	5	5	—	5
ニリン酸ナトリウム十水和物 g	—	—	5	—
塩化マグネシウム六水和物 g	0.1	0.1	—	0.1
最初の pH ⁽²⁾	10.5±0.2	11.5±0.2	9.3±0.2 ⁽³⁾	10.0±0.2
温度 °C	90±2	80±2	50±2	70±2
処理時間 h	1	1	2	2
浴比	30 : 1	30 : 1	30 : 1	30 : 1

注⁽¹⁾ 過酸化ナトリウムの取扱い及び溶解操作は、安全に十分注意する必要がある。

⁽²⁾ 必要に応じ、JIS K 8576 に規定する水酸化ナトリウムを添加して調整する。

⁽³⁾ 試験最終時の浴の pH は、9.0 以下になってはいけない。

6. 操作 操作は、次のとおり行う。

- (1) 試験管に漂白液をとり⁽¹⁾、表 2 の温度にする。

注(*) 試験管に還流冷却器を取り付け、操作中この状態にしておく。

(2) 長い方向に緩く丸めた複合試験片を試験管に入れ、よくぬらし、浮き上がらないようにして**表 2** の時間浸せきする。

(3) 処理後、複合試験片を試験管からとり出し、**JIS L 0801** の **7.(6)**によって洗浄した後、乾燥する。

7. 判定 試験片の変退色及び添付白布の汚染の判定は、**JIS L 0801** の **9.**（染色堅ろう度の判定）による。

8. 記録 試験結果は、**JIS L 0801** の **10.**（記録）によって次の例のように記録する。

例 過酸化漂白試験 変退色 4 級, 汚染 3 級（毛） 3-4（綿）

染色堅ろう度試験方法 JIS 改正原案作成委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	須賀 長 市	日本学術振興会染色堅ろう度第 134 委員会 (財団法人スガウエザリング技術振興財団)
(委員)	関 成 孝	通商産業省生活産業局
	岡 林 哲 夫	工業技術院標準部
	吉 村 正 治	通商産業省通商産業検査所横浜支所
	上 野 和 義	東京都立繊維工業試験場
	山 形 昭 衛	日本繊維技術士センター
	近 藤 一 夫	元日本女子大学
	越 川 寿 一	杉野女子大学
	池 田 順 一	財団法人日本規格協会
	須 田 昌 男	財団法人日本産業技術振興協会
	鈴 木 保 男	財団法人日本化学繊維検査協会
	小 沢 紀 一	財団法人日本染色検査協会
	井 口 耕 一	財団法人日本紡績検査協会
	下 谷 忠 義	財団法人日本繊維製品品質技術センター
	森 数 馬	財団法人毛製品検査協会
	児 玉 肇	日本毛整理協会
	川 島 悟	日本羊毛紡績会
	片 岡 邦 彦	片岡毛織株式会社
	井 上 哲 夫	日本化薬株式会社
	橋 爪 修 平	住友化学工業株式会社
	今 福 英 明	三菱化成ヘキスト株式会社
	赤 井 稔	保土谷化学工業株式会社
	高 野 富士子	主婦連合会
	川 又 幸 子	全国地域婦人団体連絡協議会
	伊 藤 康 江	消費科学連合会
(事務局)	須賀 富士夫	日本学術振興会染色堅ろう度第 134 委員会 (財団法人スガウエザリング技術振興財団)
	三田村 勝 昭	日本学術振興会染色堅ろう度第 134 委員会 (財団法人スガウエザリング技術振興財団)